

知っていますか？ 進路行事の本当のねらい

より高い目標を
目指す学校

福岡県立城南高校

毎年ほぼ全員が大学進学を志望し、150人前後が国公立大学に現役合格する進学校。平成6年から、働く意味や将来の夢を考えた上で志望校合格を目指す「ドリカムプラン」という進路学習を実施し、成果を挙げている。



3年生学年主任(取材時)
下田浩一先生

わが子が歩む 3年間の 進路スケジュール

高校は、様々なねらいを込めて進路行事を仕掛けています。「あえてこの時期にやる意味」や、「行事同士のつながり」も実はきちんと考えられているもの。そんな高校の思いを知り、子どもをサポートする手掛かりとして役立ててください。

取材・文／太田知子

適性をもとに
個性を磨く学校

東京都立晴海総合高校

2年生から「芸術・文化」「国際ビジネス」「語学コミュニケーション」など6系列に分かれ、自分で選んだ選択科目を履修する総合学科高校。このため1年生で自分の個性を考え、将来、自分をどう活かすか熟考する指導を実践。



キャリアカウンセラー
千葉吉裕先生

行事の時期やねらいを知ることが子どもを理解する手助けに

社会が大きく変化し、高校の進路指導をめぐる状況もまた、保護者の世代とはまったく様変わりしています。今は、自分に向いている分野や、将来やりたいことを踏まえたうえで、自分に合う進路を選ぶという流れが主流になっています。背景にあるのは厳しい雇用環境への危機感と、偏差値二辺倒の受験教育への反省。今の時代、受験用の学力だけでは十分とはいえません。社会に出て壁にぶつかってもくじけることなく道を切り拓くために、自分がどんな人間で、どう生きればいいのかを考える力が不可欠になっています。

一方、AO・推薦入試の拡大によって、進路決定は早期化していますから、2年生のうちでだいたい進路を決めなければなりません。このため高校では1年生から様々な進路行事を実施するようにになりました。多くの場合、3年間を通して「ここまで成長してほし

い」という到達目標を掲げ、それをもとに計画的に行事を仕掛けていきます。水滴が川となりやがて海に出るように、それぞれの行事に意味があり、積み重ねることで総合的に力をつけられるよう考えられているのです。

入学当初から様々な進路行事を体験し、将来の選択を迫られる子どもたちはたくさん迷いや悩みにぶつかります。保護者の方が、だいたいの進路行事の時期・内容・目的を知っていれば、子どもを理解し、アドバイスする大きな手助けになるはず。また進学には欠かせない資金が、いったい「いつ」「いくら」かかるか心づもりをするうえでも、進路行事の流れを知っておきたいところです。

そこで今回は、2つの高校の進路行事の流れを紹介します。それぞれ特色ある取り組みを行っている例ですが、お子様の通っている学校にも、独自の行事、スケジュールがあるはず。それらの意味やねらいを理解する際の参考にしてみてはいかがでしょうか？

1年生

3月 2月 1月 12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月

12月 総学：小論文講座

→ 論理的に書く力をつける

身近な話題をテーマに、論理的な主張や展開がある文章の書き方を練習する。小論文が必要な入試が増えているので、早い時期からこれに対応する力をつける意図もある。

●模試

7月 三者面談

→ 保護者と担任が交流を深める

保護者は家での様子、担任は学校での様子を報告し合い、生徒・保護者・担任相互の信頼関係を築く。夏休みや2学期以降の目標設定も行き、長期休みをだらけしない心構えを持つ。

●模試

6月 総学：文理選択

→ 文系か理系かを決める

家庭でも早くから進路に興味を持ってもらうために、説明会には保護者も参加。生徒は自分がかなえたい夢を考え、得意・不得意ではなく、やりたいことを基準に文理選択をする。

●模試

1年生の到達目標

働くことの意味を理解し、これをもとに志望校を考え、今何を学ぶか、なぜ学ぶかを考える。「遅刻をしない」などのルールも、働くうえで必要だと自覚して守ることができる。

1月 学力判定模試

→ 学習習慣をつけ学力を知る

7月・11月・1月の3回実施。1年生は志望校の合格判定というより、学習習慣をつけるための目安として活用。全国の中で自分の位置を知り、モチベーションを上げる効果も。

10月 総学：社会人セミナー

→ 働く喜び、意義に気づく

地域の企業経営者や保護者を招いて仕事のやりがいを聞き、人のため、自分の成長のために働く意識を持つ。進路通信でも保護者の仕事への思いを掲載し1年かけて勤労観を養う。

6月 総学：ドリカム講座

→ キャリア形成に役立つ知識を得る

将来つけておきたい学力とは何か、そのための学習力向上に向けた方策を知る。ほかに大学入試の仕組みを学ぶこともあり、実施内容は学年によって異なる。

4月 総学：適性検査

→ 向いている仕事、学問を知る

適職・適学診断を受け、自分に向いている仕事や学問分野を知る。これをもとに進路決定をすることはしないものの、将来を考えるきっかけにし、文理選択で迷った時も参考にする。

11月 科目選択

→ 将来を踏まえた選択をする

入学以来積み重ねた経験をもとに、将来就きたい仕事、自分の適性、受けたい入試などを考える。それを踏まえて2年以降の系列や選択科目を決定。オリジナルの時間割を作る。

10月 産社：大学・専門学校・入試調べ

→ 進学先を大まかに知る

校種の違いやそれぞれの特色、学部・学科ごとの就職状況、入試の種類や対策などを知る。

5月 産社：職業レディネステスト

→ 自分に合う仕事分野を知る

自分の性格や興味・関心がある分野、向いている職業などを知る。自己の個性を理解し、前向きに自己を活かす手がかりをつかむ。

1年生の到達目標

将来の夢を育み、将来活躍する自分の姿を具体化していく。大学や専門学校の特色、入試制度の概要を知る。自己理解を深め、コミュニケーション力も育てる。

1月 産社：「ライフプラン」作り

→ 過去と未来を考え、自己理解を深める

まずこれまでの大切な出会い、転機などを振り返り、自分史を書く。次に仕事・趣味・家庭など多方面から将来について考え、10年後の未来日記を書き、ライフプランを作成・発表する。自分の過去、現在、未来を客観的にとらえ、冷静な進路選択をする土台を作る。

6月 産社：班別調査学習

→ 仕事の多様性や社会の変化を知る

雇用状況の変化など、今の社会の特色を調べ、状況を分析する力、時代の流れを予測する力を養う。それとともに、調べた内容をわかりやすく簡潔に他人に伝える能力を育む。

4月 産社：コンセンサスゲーム

→ 話し合いの大切さ・おもしろさを知る

月面で遭難したと想定し、手元にある12の物品の重要度の順位をグループで話し合う。コミュニケーションの大切さに気づき、伝わりやすい表現方法を考えるようになる。

1月 総学：ボランティア学習

→ 社会貢献の大切さを知る

青年海外協力隊経験者の話を聞いたり、車イス、アイマスク、点字、手話を体験したりして、支え合いの大切さ、社会に貢献する大切さに気づく。

10月 産社：職場訪問

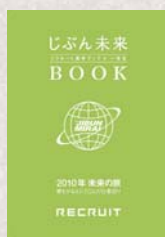
→ 働く人に会い、職業観を育てる

約20社に分かれて訪問。直接聞いた話をもとに、社会で活躍するイメージをより具体化する。

4月 新入生宿泊

→ 新生活や新しい仲間になじむ

ウォークラリーなどを通じ新しい環境や仲間になじむ。科目選択のガイダンスを受け、進路にも目を向ける。自分が身近な仲間からどう評価されているかを知るグループワークも実施。互いを尊重し合う気持ちが芽生え、自分に自信を持つ。



『じぶん未来BOOK』

社会で活躍する仕事人50人にインタビュー。仕事の魅力や苦労、やりがいを伝えるリアルな言葉と写真が、将来を考えるきっかけに。仕事の多彩さにも気づかれる。



『リクルート進学ネット』

大学・専門学校の情報はもちろん、様々な仕事の内容や学問分野の解説も充実。先輩の合格体験記など、体験に基づいた生の声も進路選択の参考に。3年間継続して使え、ケータイ版もある。

この時期に役立つ
進学情報メディア

2年生

3月 2月 1月 12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月

1月 総学：進路学習

→ 1年後に向けて目標を設定
1つ上の先輩がセンター試験を受験するこの時期を「3年の0学期」と位置づけ、志望校合格に向けた勉強に本腰を入れる。これまでの進路学習を振り返り、目標を再確認する。

●模試

10月 総学：ジョイントセミナー

→ 大学の授業の雰囲気をつかむ
地域の大学から20名以上の先生を招き、志望分野の講義を受ける。工学部の講義ではロボットの実演も実施。大学の授業や研究を身近に感じ、進学後の生活を具体的にイメージする。

●模試

6・7月 総学：勉強する意義を知ろう

→ 学部・学科で学ぶ内容を知る
主にネットで気になる学校・学部・学科で何が学べるかを調べ、レポートにまとめる。同じ学部名でも学校によって研究内容、教育方針、施設・設備に違いがあることに気づく。

●模試

2年生の到達目標

将来設計をもとに進学したい学部・学科を絞りこむ。オープンキャンパスが盛んな夏には志望校を見学する。また学校の中心的存在として活躍し、学習・生活両面で自立を目指す。

3月 総学：卒業生セミナー

→ 成功体験からヒントを得る
3月までに合格した先輩数名から、勉強の仕方、高校生活の思い出、志望校を決めた理由、大学でかなえたい夢などを聞く。憧れの先輩の等身大の姿に触れ、やる気がわいてくる。

11月 修学旅行

→ 伝える力、科学する力をつける
「コミュニケーション」と「サイエンス」の力を強化する目的で、2011年度から体験学習中心に。オーストラリアで現地の高校生と交流するコースなどの3コース制。

8月 オープンキャンパス参加

→ 志望校を見学して確認
「何をどう学ぶか」を知るために、特に「公開講座」「模擬授業」には積極的に参加。また「県庁インターンシップ」など、大学以外の体験型イベントにも参加し、視野を広げる。

6月 総学：ドリカム講座

→ 大学入試に備える
このほかに11・2月の年3回実施。1年生同様、内容は学年によって異なるが、入試の種類・仕組み・出願スケジュールを学び、進学に関する情報収集の手段を知る。



3月 LHR：卒業生との懇談

→ ロールモデルからヒントをもらう
現役大学生・専門学校生から進路選択までのプロセスや、現在の学校生活について話を聞く。憧れの先輩をモデルに、進路決定から進学後までどう動き、考えるかヒントをもらう。

12月 LHR：進路説明会

→ 志望校決定の追い込み！
志望校が具体化しない場合、さらに学校訪問を重ね、志望校をみつける。動きながら、悩みや問題点を整理し、答えを導き出す。

7月 LHR：進路説明会

→ 志望校選びを始める意識を持つ
進路についてのよくある疑問・質問をまとめた資料をもらい、学校選びの参考にする。またオープンキャンパスに参加する目的・注意点を知る。

2年生の到達目標

2年生に求められるのは「責任ある大人の選択」をすること。いろいろな学校を訪問し、進学先を卒業した将来まで見据えて、本当に自分に合う学校をみつける力をつける。

12月 「進路希望調査」提出

→ 希望の進路を決める
この時点で方向性がほぼ固まるため、ここまでに十分吟味することが大事。

8月 オープンキャンパス参加

→ 志望校選びの判断材料を増やす
各自がオープンキャンパスに参加。内容をレポートにまとめて提出する。自ら足を運び、目で見る経験を重ね、経験に裏打ちされた知識・判断材料を増やす。これをもとに具体的に志望校選びを進める。

4月 LHR：進路説明会

→ 最新の進路情報を知る
いよいよ進路選択の年を迎えたことを知り、気を引き締める。先輩の進路や最新の進路情報などをもとに、進路を考え始める。

オープンキャンパス参加

12月 総学：課題研究のテーマ決定

→ 主体的に学ぶ体験を積む
テーマを決め、研究プランを立てる過程で、自ら考え、行動する主体性が養われる。課題研究の成果はAO・推薦入試で評価されることがあるので、それをねらう生徒も多い。

総学：プレ課題研究(4~11月)

3年生で行う課題研究の準備学習。
取材先へのアポの取り方、図書館の使い方、アンケートの取り方など、研究の手法を学ぶ。
並行してどんなテーマにするか、内容をどう深めるか、個別指導を受けながら考える。



『進学事典 学校選び応援号』(右)

『自分にぴったりの学校が見つかる本』(左)

国公立・私立大学、短大、専門学校をオールカラーで見やすく紹介。学校情報を比較しやすい(右)。授業や就職&資格、キャンパスライフなど16のテーマ別に学校を紹介。写真を見ながら学校が探せる(左)。



『学部・学科ナビBOOK』(右)

『学びスイッチ』(左)

好きなモノやスタイル、気になる「キーワード」など、興味や関心を切り口に学部・学科を紹介(右)。身近な話題から学問や仕事を理解する本。志望分野がはっきりしていない高校生の好奇心を刺激(左)。

この時期に役立つ
進路情報メディア

3年生

12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月

9月 体育祭

→ 達成感と自信を得る

一年で一番盛り上がる行事で、練習時間も長いので、終わるまで勉強との両立が大変。でも全力で下級生を引っ張り、行事を成功させる経験が、心地よい達成感と自信をもたらす。

9月 センター試験出願準備

→ 具体的な出願計画を立てる

3年生の97%が受験する最初の関門が近づいていることを知る。センター試験の結果次第で二次試験の出願先が変わるかもしれないので、併願校も選んだうえで受験科目を決定する。

- 模試
- 校内模試

5月 進路希望調査

→ 最終的な志望校を確定

2年生までの進路学習の成果をもとに、志望校や挑戦する入試を決める。

7月 三者面談

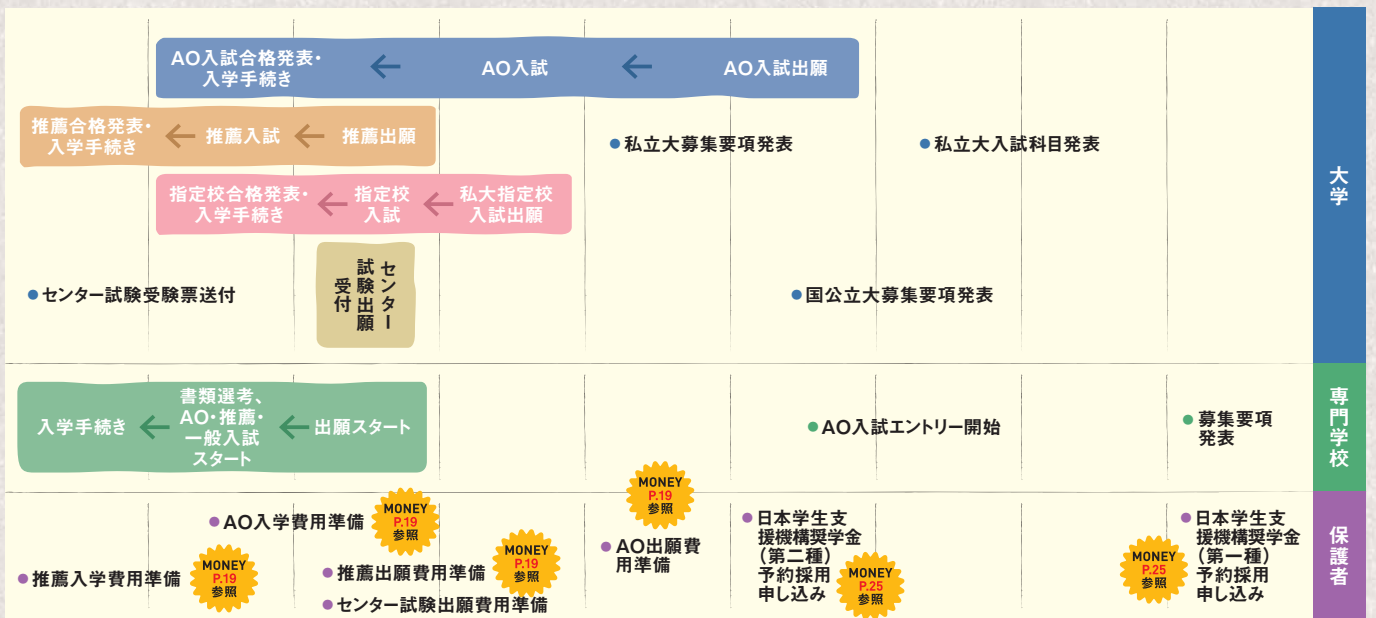
→ 合格を目指し学習計画を立てる

模試をもとに志望校の合格可能性を検討し、今後の学習計画を考える。もしD判定でも志望校は変えず、限界を超えて頑張る力をつける。保護者も子どもの状況を理解し応援する。

- 校内模試
- 小論文模試
- 模試
- 小論文模試

3年生の到達目標

志望校合格に向けて、受験勉強に本腰を入れる。同時に集団や社会に貢献できる力をつけ、学校のリーダーとしてお手本となる行動をする。



大学

専門学校

保護者

12月 進路説明会

→ 一般入試の対策を知る

一般入試で受験する場合の出願計画の立て方、今後の勉強の仕方、やる気の出し方、不安の払拭の仕方を知り、効率よく出願・勉強する。

12月 課題研究の発表

→ 達成感を得る

1年間1つのテーマを追求した成果を発表。考える力、結論を導いてまとめる力に加え、人にわかりやすく伝える力が身につく。

6月 三者面談

→ 保護者と意見を調整する

本人の希望と保護者の意見が合わない場合、解決策を話し合う。この時、学校で養った自分の意思を誠意をもって伝える力をいかに。

6月～ AO・推薦入試対策の模擬面接

→ 入試に備える

書類が準備できたら、それをもとに面接の練習をスタート。こちらも早期化に対応し、教員に自分から指導を頼む主体性が必要。

3年生の到達目標

進路目標をもとに、その実現に向けて必要なことを主体的に考え、行動する力をつける。合格・不合格にかかわらず、「自分の道は自分で切り開く」という前向きな気持ちを持つ。

4月～ AO・推薦入試の提出書類準備

→ 入試に備える

AO・推薦入試の早期化に伴い、対策も早まっている。志望校の出願締め切りに合わせて、無理なく段取りを組む計画性が求められる。



「リクルート進学ネット」

会員登録すると「MY進学手帳」を使って出願、入試、入学金納付スケジュールなどを管理できる。受験期間中の賢い過ごし方やお金の工面の仕方など役立つ編集記事も要チェック。



『入試&出願情報』

各学校の入試の日程・種類・内容などを網羅。併願しやすいお得な入試情報や、入学金などが減免される特待生入試制度など、個別に調べるとなかなか見つからない入試情報を集約。



『進学事典 志望校研究号』

学部や学科、コースを分野別に編集。同じ分野の学校をあらためて比較・検討するのに便利。本格的に始まる志望校の絞り込み、併願校選びをサポート。

保護者への メッセージ

保護者にしかできない 「生き方」のアドバイスを

福岡県立城南高校
3年生学年主任(取材時)
下田浩一先生

わが校では保護者の方に文理選択説明会に参加してもらったり、講師として招いて仕事のやりがいを語ってもらうなど、保護者の方を巻き込んだ進路指導を行っています。そこで気になるのは「進路のことはわからないので子どもに任せています」という声。確かに入試制度などは複雑で、すべてを把握するのは難しいかもしれません。でも保護者にしかできないサポートがあるはず。例えば「生き方」についてのアドバイスです。幼い頃から子どもの成長を見守ってきた保護者は、その子にとって誰よりの理解者。「小さい頃はこんな子だったよ」「こんなことが好きだった」と、エピソードを話してあげるだけで、子どもは励まされ、何か将来の展望がひらけるかもしれません。

もうひとつ忘れてはならないのがお金のこと。子どもの希望をどこまで尊重できるのか、1、2年生の頃から話し合い、結論を出してください。保護者と意見が合わないままでは、子どもの進学意欲がなくなってしまうので、くれぐれもお願いしたいところです。

子どもを取り巻く実情を知り、 自ら考え行動する姿にエールを

東京都立晴海総合高校
キャリアカウンセラー
千葉吉裕先生

総合学科であるわが校では、1年生の「産業社会と人間」の時間に、「自己理解」と「進路・社会の状況理解」の2つを並行して進めます。いろいろな体験を通して自己を知り、社会へのアンテナが広がると、自分の中に価値判断の軸ができ始め、それをもとに「将来どう生きればいいのか」を主体的に考えられるようになります。2年生以降は、自らの判断軸と主体性をもとに、自分の足を使って学校を訪問し、自分の力で自分に合う学校を見つける——、これがわが校の進路指導です。

保護者の方に何より意識していただきたいのは、世の中の変化。今や「一流大学→一流企業→生涯安泰」という価値観が通用しないのはご存じだと思います。またAO・推薦入試による合格者数の増加、国公立大学の学費の上昇など、進路環境も刻一刻と変化しています。「どんな進路を選べば幸せか」「どんな進路なら得か」という問いに正解はありません。ぜひお子さんと一緒に現状を学び、自分の力で考え、決断しようとするお子さんを応援してあげてください。

3年生

3月

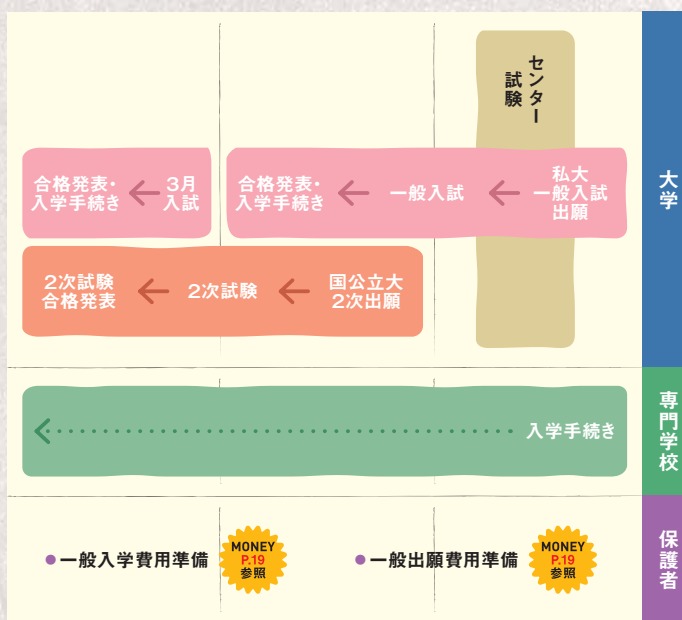
2月

1月

12～2月 個別指導

→ 受験終了までやりぬく

成績が上がらない不安、併願校選びの迷いなどは随時担任に相談し、解決策を探る。特に国公立大学の二次試験の出願先は悩むので、教員に相談し、納得いく選択をする。



合格後～進学後に向け準備

→ 「今」を充実させる

AO・推薦入試はゴールではなく通過点。合格後も充実した高校生活を送るために、進学準備の勉強や、資格取得、部の後輩指導など様々な活動を主体的に行う。

